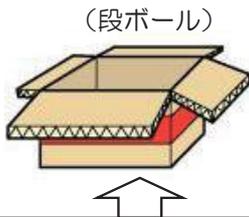


資源物の出し方についてのお願い

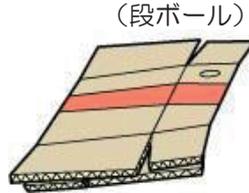
資源物のうち、ダンボール、新聞、雑誌などの紙類を出す際には、つぎのことに注意して出してくださいようお願いします。

○必ず十文字にひもでしばって出してください。

(このままでは出さない
てください)



(段ボールは必ずたたんで
ください)



(この状態で出してください)

(たたんだものを十文字
にしばってください)



※上のよう開いた状態の段ボールに、たたんだ段ボールを挟み込んで出されていることがあります。そのような出し方をされますと、車の中でバラバラになり、積込時の荷台の整理や荷下ろしに時間がかかってしまうことから、他の業務に影響が出てしまいます。

(新聞)



(雑誌)



(出典：このイラストは、経済産業省・3R政策の「ごみイラスト素材集」を使用しました。)

(<https://www.meti.go.jp/policy/recycle/main/data/illust/index.html>)

《“ごみを減らす10アクション”（食品ロス削減への取組）》

広報おきたま7月号は、“てまえどり（手前取り）”についてです。

みなさん、“てまえどり”という言葉をご存じですか？スーパーやコンビニで食品を購入するときに、商品棚の奥からではなく、手前の商品（消費期限・賞味期限の近い食品）から取り、購入する消費行動です。広報おきたま3月号では、「消費期限と賞味期限」の違いについてお知らせしました。

ある自治体による調査で、“てまえどり”をせず期限まで長い商品を買う理由としては、家庭での食品ロスが増えることへの懸念が最も大きな理由とのことでした。ただ、その調査に際し、“てまえどり”実施モニターが、食品ロスを意識しながら実践した結果、家庭からの食品ロスは増加せず、むしろ減少したとのことでした。

スーパーやコンビニに陳列された商品を手にする際、つい期限が長い奥の方から取りたくなりますが、すぐに使う、また、使う予定のものは手前から取ることを意識することで、お店で期限切れにより廃棄される食品が減り、事業系の食品ロス削減につながります。

事業者と消費者が互いに協力し合いながら食品ロス削減に取り組むことで、事業系と家庭系の全ての食品ロス削減が可能となります。

住民みなさんには、食品ロスを意識した生活を心がけていただき、ごみの減量にご協力ください。

